



親鸞と碧南とのかかわり

親鸞は、1173年、平安時代の末期に中級貴族・日野有範の子として京都で生まれたとされており、9歳のときに出家して、延暦寺の堂僧をつとめ、法然を師と仰ぎ、浄土宗をさらに高めて行く事に力を注ぎ、結果として、浄土真宗の開祖となりました。1262年、89歳で死去。

現在、浄土真宗は、日本の仏教諸宗中、最も多くの寺院（約2万2千か寺）と信徒を擁しています。

市でも、圧倒的に浄土真宗系が多いことは事実です。市と親鸞とは直接的には関係はありませんが、親鸞以後の人脈のなかで、深い関係のある人物がいます。

まず、蓮如です。蓮如は、1415年、本願寺第7世存如の長子として生まれ、本願寺第8世となり、本願寺中興の祖といわれている人物で

す。蓮如は、1468年（応仁2年）53歳のとき、比叡山僧兵の迫害を避けて、三河地方に布教に来ましたが、その際に拠点としたところが、市北部の西端であり、そこにできた寺が応仁寺です。

次に出てくる関係者は、清澤満之です。満之は、1863年、尾張藩の下級士族徳永永則の長男として生まれ、東本願寺の育英制度によつて東京大学文学部哲学科を首席で卒業、1888年、25歳で、碧南西方寺の清澤やすと結婚し、西方寺の住職となり、1892年、29歳のとき、日本最初の哲学書「宗教哲学骸骨」を出版、1896年、33歳のとき、宗門改革運動に立ち上がり、仏教界のルターともいわれるようになります。1901年、38歳のとき、東京に真宗大学が新設され、初代学長に就任しましたが、39歳で、肺結核のため碧南西方寺で死去。西方寺では、現在でも清澤満之終えんの部屋や執筆の部屋が見学でき、記念館では執筆した書籍などが収集展示されています。哲学たいけん村無我苑のもとを作った伊藤証信さんも1901年、25歳のとき、真宗大学で教えを受けています。そして、浄土真宗の寺の住職をしていた28歳のとき、靈感に打たれ、無我愛の自覚を得て、新しい哲学運動を展開しました。

このように、市と親鸞とは間接的ではありますが、深い関係があると言えます。

生ごみを減らそう

コンポスト容器、生ごみ処理機の購入補助

問合せ 環境課ごみ減量係

生ごみの減量化および資源化を推進するため、コンポスト容器、生ごみ処理機の購入に対して補助金を交付します。各家庭での生ごみ処理・リサイクルにご協力ください。

補助を受けるには

市内の販売店で、購入時に補助金交付申請書、補助事業実績報告書に氏名、住所などを記入、押印すると補助金額を差し引いた金額で購入できます。

対象

内容	コンポスト容器	生ごみ処理機
対象機器	・ふた付きで底がなく容量が100ℓ以上のもの ・底があり、土や微生物と混ぜて使用し、容量が50ℓ以上のもの	加熱やバクテリアなどの分解の方法により生ごみを減量、消滅またはたい肥化させる機械
対象者	市内在住で、承認を受けたコンポスト容器を取り扱う市内の販売店から購入した人	市内在住で、承認を受けた生ごみ処理機を取り扱う市内の販売店から購入した人
対象個数	1世帯2台まで (破損・故障による買替え可)	1世帯1台まで (破損・故障による買替え可)
補助率	3分の2（上限7,000円）	3分の2（上限50,000円） ※1,000円未満の端数は切り捨てです。

※補助は年度予算額以内で先着順です。